



しずおか緑・花・祭会場

目次

あいさつ 静岡県都市住宅部長 佐藤隆二	P2	会員施工の海外デザイナーの庭	P7~9
第22回通常総会開催	P3~4	施工従事者・出展者の立場から	P10~13
春の褒章受章者	P4	ガーデンガイドリポート	P14~15
しずおか緑・花・祭 成功裡に閉幕	P5	協会ブースで一人余がアンケートに解答	P16~17
しずおかガーデン三景	P6	ワールドガーデン・コンペティション入賞作品	P18~19
		話題の森・編集後記	P20



静岡県都市住宅部長

佐藤 侃二

社団法人静岡県造園緑化協会の皆様には、日頃から本県の都市緑化行政の推進に多大な御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

特に、富士山こどもの国や小笠山総合運動公園、吉田公園などの整備、浜名湖ガーデンパークの建設など、「快適空間しずおか」づくりに向けて貴協会の果たす役割は、近年ますます高まっております。

さて、先に開催された二〇〇一年しずおか緑・花・祭では、目標を大きく上回る五九万七千人余の県内外の大勢のお客様をお迎えし、好評のうちに緑や花の魅力を楽しんでいただくことができました。

貴協会におかれましては、「協働」の理念の下、イベントの各分野で御活躍をいただいたところであり、改めてお礼を申し上げる次第であります。

会場一杯に咲き誇った五〇〇種類五〇万株の県内産の花とともに、日本初の企画となったワールド・ガーデンコンペティションにおきましては、貴協会や各支部、協会員各社をはじめとする造園業界あげての創意あふれる庭園の数々が、新鮮な感動を呼び、大盛況の原動

力となりました。

また、貴協会にはテーマガーデンである「花の渓流大井川」の施工をお願いしたところ、すばらしい庭園を制作していただいたばかりか、開催を目前にした時期に、石組み工事や植込み工事の現地研修会や海外のガーデンデザイナーとの研修交流会なども開催していただき、業界の資質の向上にも大きな成果が得られたところであります。

さらに、イベントを印象深いものとした要因のひとつとして、緑・花・祭ガイドツアーが挙げられますが、静岡県造園施工管理技士会の皆様によるガーデンコースの案内が、これまた大変な好評を博したところであります。

一方、華やかな会場の裏方として、開催前は特に雨が少なかつたこともあり、灌水作業をはじめとする植物の維持管理に、早朝から夕方遅くまで大変な御苦勞をお掛けいたしました。

このように、しずおか緑・花・祭で発揮された力をさらに充実していただき、二〇〇四年に浜名湖で開催されるしずおか国際園芸博覧会の成功に向けて、引き続き御協力を賜りたいと存じます。

今後の都市公園の整備や都市緑化行政に一層の御支援をお願い申し上げますとともに、貴協会と会員各社をますますの御発展と御活躍を心から御祈念申し上げます。

樹木余話

■キバナイペー(フウセンカスラ科)

しずおか緑・花・祭会場で一番人気はキバナイペー。樹木名当てクイズをやつた協会出張庭園のキバナイペーの前はいつも人だかりであった。

南米原産。県内では浜松市フラワーパーク、静岡市宝台院別院にはかなり大きな木がある。落葉広葉樹で原産地では高さ二〇mほどに達し、庭園樹、公園樹、街路樹として幅広く利用されている。

花は漏斗状で風の英名は「トランペットツリー」を意味する。葉に先立つて四〜五月に開く黄金色の花は見ごたえがある。残念なことに寒さに弱いが県内でも無霜地区では育つ。これから緑・花・祭を契機にもっと植栽されるようになるであろう。



第二十二回通常総会開催

第二十二回通常総会を去る四月二十七日、午前十時三十分から静岡市のブケ東海静岡において、池田豊人国土交通省静岡国道工事事務所長、栗原頼環境部長、顧問の森竹治郎県議会議員をはじめ、国、県、関係団体等多数の御来賓の臨席を得て盛大に開催した。特に本年は、国土交通省の静岡、浜松、沼津の各工事事務所長の出席もいただき、会員もおおいに気を良くしていた。総会では、平成十一年度の盛り沢山の事業報告及び一億円強の収支決算、平成十二年度の事業計画及び予算案などすべての議案が承認された。



挨拶の西野会長

高橋一層発揮
我々の力が
博覧会でも
の国際園芸
博覧会でも
なり、三年後
足がかりと
緑・花・祭が
いる。この
評価も得て
評師も得て
いる。この
緑・花・祭が

総会は、堀美仁一郎総務企画委員長の司会で進行。栗原文男副会長の開会の言葉のあと、西野勢作会長が「長い間準備し、開催にこぎつけた」と二〇〇一年しすおか緑・花・祭がオープンし、多くの入場者にご

わい、大きな反響をよんでいる。イベントの見所、七十九の創作庭園のうち、三十六が私達協会会員の出席で、外国人デザイナー設計庭園の施工も会員である。この緑・花・祭で我々県内業者の技術力を示す



池田静岡国道工事事務所長

策受託事業、グリーンバンク関連受託事業、基金を取崩ししすおか緑・花・祭報告とそれに伴う収支決算を盛り込んだ第一号議案は

原案どおり承認された。

できることを期待している」とあいさつ。
続いて緑地維持管理コンクリートの表彰、会長表彰(別掲)を行った後、来賓祝辞をいただき議案の審議に入った。

国土交通省の池田静岡国道

工事事務所長は、造園緑化協会の皆さんに静岡市清園町のリフレッシュ工事をやっていたいただき、好評を得ている。今後も皆さんに道路緑化の企画提案をお願いしたいと激励の言葉をいただいた。続いて、顧問の森竹治郎県議会議員、公務で遅れて到着の栗原頼環境部長からそれぞれ立場で祝辞と激励の言葉をいただいた。

議事については、パソコン講習会、淡路花博視察研修、マロニエとちぎ緑化視察研修、シニア・ワーク・プログラム受託事業、空港関連自然環境保全対

生を受入れ、コミュニティ緑化の推進等盛りたくさんの事業計画と予算を内容とする第二号議案も原案どおり承認された。

議事終了後、東部支部から「最近、シルバリー人材センターの行っている樹木剪定業務は専門工事業者の分野を脅かすものである。厳しい経済情勢下で新たな造園工事の減少するなか、工事の施工と専門的知識と技



総会状況

術を要する剪定管理業務は一体のもので、営業面で重要な部分である。早急に対応策をと緊急動議があり、栗松副会長から「総務企画委員会でも議論されている。いずれみんな高齢者となっていくので対峙するのではなく共存共栄の道を探らなければならぬ。今後、総務企画委員会を中心になって実態調査、対応策等を検討していく」と答弁がありました。

また、県空港建設局湯浅信吾空港整備室長から、最近、空港建設が誤解されているので実態を報告させていただき



緑地維持管理コンクール表彰

いと、資料を配布して「進捗状況、空港の必要性、県財政に占める空港建設費の割合等」細かに講話があり、空港建設担当責任者から聞く初めての話しに会員一同うなづいていた。

総会終了後は、会場を変えて、松井正季しずおか緑・花・祭推進室長のしずおか緑・花・祭に対するお礼の言葉と発声により懇談会に移り、午後二時半にはすべてを終了した。

◆緑地維持管理コンクール

〔静岡県知事賞〕

○臨港富士線

富士市長 鈴木清見

〔社〕静岡県造園緑化協会賞

○安倍川緑地

静岡市長 小嶋善吉

○森町文化会館

森町町長 村松藤雄

◆協会長表彰

〔会員又はその代表者〕

○西村義夫 西村造園(株)

○村田昌弘(有)富士高造園

○岡本 正(株)補助

〔従業員〕

○原 達雄(株)翠石園

○石原和男(株)小林土木緑化

○宮地和好(株)江間種苗園



代表者表彰



従業員表彰

春の褒章受章者

会員の二氏が春の褒章で黄綬褒章を受賞されました。おめでとうございます。
業界を上げてお喜び申し上げ、今後の御活躍を祈念します。

◆市川一男氏

〔有)市川造園 代表取締役



〔事績〕

昭和二十一年伸松園に造園工として入社以来、常に技術の取得研鑽に努め、昭和四十年二月には市川造園を創立。その間たゆまぬ努力を重ね、職業訓練指導員、一級造園技能士の資格を得る。

茶庭築造技術に卓越し、樹木移植技術の改良改善、技能者の指導育成と社会的地位向上に努めた功績は大きい。平成十一年には「現代の名工」として労働大臣表彰を受けている。

昭和五十一年からは浜松造園緑地組合長、昭和六十二年からは静岡県造園技能士会副会長、平成五年から同会長を務めるなど業界発展のため東奔西走の活躍、その情熱と行働力、指導力は高く評価されている。

◆福井啓介氏

天龍造園建設(株) 代表取締役



〔事績〕

昭和六十三年五月に日本造園建設業協会の理事就任以来、常に中核として造園技術の研究・指導及び造園業の合理化、近代化、構造改善に積極的に取り組みとともに、公園緑地行政に対する協力、緑化木の安定的供給体制の確立等造園建設業の発展に貢献。

また、昭和五十七年には浜松造園緑地組合長に就任、共同受注、資機材の共同購入を行う等経営改善を図る。

そのほか、県造園緑化協会の設立に尽力、緑化思想の普及、後継者の育成等、中央、地方に於ける活躍は高く評価されている。



しずおか緑・花・祭成功裡に閉幕

静岡県で初めての本格的なガーデニングショー「2001年しずおか緑・花・祭」が、入場者目標四十万人を大きく上まわる六十万人を迎えて、五月二十七日に惜しまれながら幕を閉じた。会期は三十七日間であったが、会員は開幕前の工事や会員の出席、開幕中の維持管理に係わり、また、協会では一日も欠かすことなく、出展した庭園に「庭造り相談所」を設けて全会員が当番で諸々の相談とクイズの採点に追われた。

また「静岡県造園施工管理技士会」は、毎日、二人ずつ慣れない口上で「ガーデニングガイド」を勤め、来場者に感謝された。本号は緑・花・祭特集号としてそれぞれの立場で参画した会員の投稿を掲載した。



知事ら関係者によるテープカット



ニュージーランド大使館賞受賞の源平 清社長



外国人デザイナー施工現場での研修会



緑・花・祭ボランティア代表から園芸博代表へ引き継がれる成功の鍵

協会では個々の会員が受注工事や出展工事に多忙を極める間に、それでも、千歳一週の子ヤンスと、外国人デザイナーの協力のもと、ワールドガーデニングコンベンション、チーフコーディネーターの二宮孝嗣氏、同事務局の小倉珠子氏に通訳をお願いして四人の施工現場での

研修会、夜の交流会を開くなど技術の修得、親交を深めた。一方、造園施工管理技士会では、期間中の庭園ガイドを引き受け、本番を一週間後に控えた四月十六日にリハーサルを行った。淡い緑の衣装のガイドスタッフと乗松会長によるシミュレーションにガーデニングアドバイザーを勤める会員はなごやかな雰囲気の中にも緊張したおももちで見聞していた。

しずおかガーデン三景

この三庭園は、それぞれの団体が「しずおか緑・花・祭実行委員会」より設計から施行まで委託を受けて造ったものです。

花の溪流大井川

〔社〕静岡県造園緑化協会設計施工

自然の荒々しい溪流を庭のメインテーマとする。溪流は石組が見せ場となる。水の代わりに川底を段差のある開路を使い、その両サイドを草花であしらい、石と石との間や法面は山野草を配して溪流風ロックガーデンといった感じにする。

自然の庭は、自然をそのまま写すのではなく、自然の本質を表現し、それを理想化して更に美的に最構築すること。庭は鑑賞、休養、憩い、運動といった精神的、活動的両機能を満たすことが大切だと考える。そのため、多様な自然形態をヒントにして、それを創造的に庭に反映させた。



ふじのくにしずおか

〔社〕日本造園建設業協会静岡県支部設計施工

静岡県の山は、二〇〇メートル級の富士山・南アルプスを始めとして、山岳部を中心に形成されている。このため富士山型のモニュメントを配置し、海を結ぶ線を「里」と位置付け、土地利用や標高による植生を色で表現して「ふじのくに」をダイナミックに表現した。

自然豊かな奥大井

静岡県芸店組合連合会設計施工

自然に満ちあふれ、四季の変化に富む奥大井を走りゆくSLがトンネルを抜け出たところから「花物語」が始まる。中心に位置する象徴的な雑木林、木々の下には日陰の植物が分布し、自然の日陰の庭を形成する。奥大井の大自然の中を力強く走るSLのロマン、そして周囲のやさしい草花のメルヘン的なイメージを全面に出したガーデン。



海外デザイナーの庭

世界一流のガーデンデザイナーと国内のガーデンデザイナーが庭づくりの技を競い合った「ワールドガーデン・コンペティション」しずおかガーデン大賞は日本初の企画で、しずおか緑・花・祭の目玉。海外からの招待デザイナーは、いずれも英国王立園芸家協会主催のチェルシー・フラワー・ショウを初めとする権威あるショーのゴールドメダリスト。今回は四人の設計の庭園を会員四社が施工した。以下、その現場責任者四人の投稿です。

サマーハウス

大昭和住宅株 石崎 岳

「あれっ？この庭では大賞は難しいかも・・・」

二回目の園面が送られてきたとき、慌ててカタログを探し、問い合わせてみました。

なぜならば、今回の庭の重要なポイントであるはずの、サマーハウスがバーゴエと変更してあったからです。

恐らく、予算的な心配を軽減する為に変更したんだなあと、思い、探しているうちに「コマ

ロエとちぎ」の会場（視察研究時で偶然みつけたのが今回のハウスです。

庭園名「LONDON PRIDE」



ショーカーテン 今回のワールドガーデンコンペティションでは、「マイホームガーデン」というテーマを基に、何年か前からすでに存在するような庭」ということと、植物を最高の状態に仕上げるという困難な課題をいかにクリアでき

るかがポイントだったと思います。

庭の歴史を感じさせる為に、樹木への手入れはほとんど行わず、草花を扱う姿勢は非常に丁寧で、植物の性質や配色バラ



見事完成「ヤッター」

ンスを考えながらなまさせていきました。また、ビスの頭を黒く塗ったり、平板石の目地にスギゴケを詰めたりと、よく見ないと気付かない部分まで細かく仕上げていました。

サマーハウスやフェンスの色も庭全体と調和し、バランス良く仕上がりました。

また、花期を調整する為に「コブシ系やユキヤナギ等、開花前に咲き終わってしまう樹木は、根が動き始める前に長野県へ運び、できる限り遅らせよう」と試みましたが、会場の園路舗装

の関係で、四月早々の搬入となり、無駄な努力となってしまうました。

もうひとつ残念だったのが、庭の奥行きと広がりをも十分に発揮していたモウソウチクが、強い潮風に耐えきれず、開会まもなく枯れてしまったことです。

言葉の壁

「通訳なしで本当に大丈夫？」と、関係者の方から心配なれ、「大丈夫ですよ！同じ人間なんだから」と答えてはみたが、英語はまったくの金魚で、身ぶり手ぶりと図解で四苦八苦やっていたうちに、言いたいことが段々解るようになりました。

事前の打ち合わせもメールで行いましたが、持つべきものはコンピュータです。話せなくても訳してくれるのです。

終わりに

ショーカーテンを熟知し、世界中での活躍を見れば、必然的に大賞ナンバーワン候補という位置付けが生まれ、造る前からプレッシャーの大きな仕事でしたが、明るく、楽しく、貴重な時間を一緒にできたことを誇りに思います。

ご協力して下さった皆様、ありがとうございます。

しずおかガーデン日本大賞

デビット・スティーブンス (イギリス)

「随所に日本的植物」

ロンドンでよく見られる庭で、部屋からレンガの上に降り、飛び石から宿根草の花壇を抜けてサマーハウスへ。ベンチでアフタヌーンティーを！鳥の声、木の葉のざわめき、花の香り。庭全体が大都会のオアシスです。

最優秀プランツコーディネーター賞

フィオナ・ローレンソン
(イギリス)

「英国の美しい色彩」

伝統的なコテージガーデンで、手入れの行き届いた柔らかな感じのする庭です。多様な草花を使い、自然さ、気まぐれさ、ノスタルジックな想いを組み合わせ、美しさを表現しています。シンプルさの中にドラマティックな展開が!

イギリス庭園の作庭

(株)八雲 小沢芳彦

イングリッシュガーデンと言われると、様々な色や、大きさの花が、複雑に、でもバランス

良く植えられている。自分では、どの様にしておいたかよくわからなかったので植付の時は良く見ておこうと考えていました。

施工では、デザイナーのフィオナが来日する一週間前にアシスタントが一人先に来日し、指示を受けて構造物の施工を行なった。フィオナが来日するまでに、植栽を始める状態にしておくという事で、急ピ



施工風景

チの作業だった。構造物の、石材やレンガはすべて、自然に古く見せたいと言う事で、人工的なカット面が見えない様子を付けた。

滝口については、鉄石積込が、モルタルの目地が見えない様に、石だけで積み上げた様に見える為、裏込をしながら少しずつ積み上げた。左右のバラ

ンスを取る為、一人の職人さんですべて積み上げた。アシスタントの人から、「この出来映えなら、イギリスの庭園でも仕事が出来ると言われ、職人さんも満足そうだった。

フィオナが来日してから、花がぞくぞく入荷されて来た。先にもう一度リストから苗を探していたが、大きな苗が無かったり、花の開花時期が合わなかったりで、すべてはそろわなかったため、市場へ行って、直接仕入れを行なった。花がすべて入荷すると園芸店でも出来そうな量になっていった。

この頃になると、それぞれ役割分担されて来て、一人は水やり専門、私ともう一人はオペリスタや、外廻りの塀の準備でペンキ塗りにおわれ、花壇は、フィオナとアシスタント二人だけでいいの?と思ったら、三百トレイ以上あった花苗すべて、二人で植えてしまった。少し見ない間に、どんどん植えていき、庭の彩りが変わっていき、よく見て勉強する間もなく庭は無事完成する事が出来た。

期間中は、花ガラ摘みや、清掃をしながら、あの花は、ここに植えて、あの苗はここに植えて有る」と良く観察していました。

静岡県知事賞(金賞)

カレン・アン・ローザ(ニュージーランド)

「豊かな自然を表現」

異境の地へ、ニュージーランドテーストを!と題された庭は、大自然の神「TANE」の聖なる流れ「WAIORAATATANE」と暖かな恵みのパティオと伝統的なマウイの憩いの小屋「TEWH AREMA」とで、心から皆さまを歓迎します。

しずおか緑・花・祭を終えて

大村造園建設(株) 大村 幸康

しずおか緑・花・祭では、県内外から五九七〇〇〇人の大勢の来場者があり、大変嬉しく思います。

私自身、県造園緑化協会の技術委員を務めさせて頂いており、また日本ニュージーランド協会の会員であることから、今回ニュージーランドのデザイナーであるカレン・アン・ローザさんがあるカレン・アンの施工させて頂きました。三月二十六日の来日から四月十七日の完成までは、あつという間でしたが、異国の一流ガーデンデザイナーから技術やノウハウを学ばさせて頂くことができ、社員が一丸となりひとつの事を達成できたことの意味は大きなものであったと確信しております。施工にあたっては、ニュージーランド原産のニューサイランやドラセナ、ニュージーランドから送ってもらった、アステリア、カレックスなどのオーナメンタルグラス、沖繩からヘゴキを取り



庭園名「TE RERENGA AOTEA」

沖繩からヘゴキを取り

寄せるなどして準備しました。おどろいたのは、下の土が見えなくなるくらい植栽密度の高さと最後の仕上げは庭の廻りに全ての植物を置きデザインが自ら植え込んで行くなど、



築庭にたずさわったスタッフ

今までにない経験をさせて頂くとともに、新たな発見の多い三週間でした。また、来日以前から悩みの種だった「言葉の問題」についても、身振り手振りを交え片言の英語で、何とか意思疎通を図ることができ、ほっとしました。もうここをカレンさんには多大なご迷惑をお掛けしていたかも知れませんが…。

緑花祭は、大盛況のうちに閉幕しましたが、今回の協働の成果を二〇〇四年に開催されるしずおか国際園芸博覧会、さらに発揮していきたい、業界が盛り上がりがればと思っております。

最優秀施工員

トーマス・アイヴァーセン(アメリカ)

「アウトドアの部屋」

現代のアメリカならではのこの庭は、世界の色々な要素を取り入れ、庭というよりは屋根のない部屋と言った趣です。自然を五感で感じ、本を読んだり、お風呂でくつろいだりして、プライベートな時間や家族や友達との楽しい時間を過ごしてみたいいかがでしょうか。

最優秀施工員を受賞して

(有)飯田庭園 飯田正徳

トーマス・アイヴァーセン氏(米
国シアトル)の北米スタイルの生
活する庭の施工が当社でと決
定し、外国勢四社と国内施行
者の初ミーティングの時、トーマ
ス氏(以下トムと称す)は

会場に以下と直ぐに私の方々を向き軽く会釈をした。トムは私の顔も風体も知らないはずなのに馬が合うと云うか、日本流では以心伝心というところだろう。

翌日、造園材料の打合せ会が開かれ、私の次男坊泰季が帰国中

(現在サンジゴの造園デザイナー
大学留学中なので同行させ通
訳をさせたので当社では余り言
葉では困らなかった)

トムの作風は、材料その他当社で通常施工しているものと余り変わりなく、全体のカラーリングは、サビ系で統一したい、との要望であった。

彼の図面は来日して東京のホテルに滞在中にまとめたラフスケッチ程度のものであったが、意匠的には明確であり、これはイケると感じ、共に良い施行をしてゴールドメダルを取りましたよと固い約束をしてトムは帰国した。

年も明け二〇〇一年、施工年となり国内でのミーティングは材料調達や細部の検討と急に慌しくなった。

見事に着色された平面計画

園一枚の着手はできないので私は施工図を作成してFAXでやり取りをした。植物は全部学名で高中文は判名するが、地被類は辞典と首ったけで調べ上げるのも出てきた。トムが来静した時点でどれにするか決めるということになり安心した。

施工は三月二十六日に着手した
ので他社は二週間遅れで大分関係者に心配を掛けてしまった。

いざ施工になり図面通りに地割を始めた処、一割位敷地が狭くてそのままでは納まらない状況であったが、施工図の修正や中心線の角度の修正で表現は完璧であった。

着手後一週間で基礎的なものは完了という頃、トムと彼のスタッフのアンさんが来静した。

施工の為帰国中の泰季とトム、アンさんを連れて植物の調達に出掛け丸一日掛けて気に入る樹木をチョウクして回ったのだが後日トムが、私も、十二年造園の経験があった事はある樹木と異なる喜び様であった。

その日の夕方再び現場に戻る
と石の噴水が完了していたので
施工の早さと正確さをとても喜

んでくれて一安心であった。又後方の木フェンスと藤棚も白木の加工技術を見て、これ程良いものはアメリカでも作れないとグレード、ワンダフルの連発で、私もスタッフも気分は最高でありその日からクレーラーにはビールとつまみが毎日満タンであった。

最終の植栽で、高木から低木、花物と工事は進行するが私の植栽方と、トムのそれは根本的に相違があり、私は高木の植栽に口を挟まなかった。トムの植栽は葉面を前に向ける植栽法で、葉が多い方が常に正面で、一瞬見たいには緑量が多く樹冠のみ整う方式で、樹木の氣勢・方向重み性が無いのである。二人で話し合ったが私の方法はなぜか受け入れられなかった。完成パーティーの時、私の方法を絵まき書いて説明したが通じたかどうかが？

施工最終日、温泉に水を張りこれで完成だ。あとは賞を取れるかどうかのみ、ビールで乾杯をしていると、完成に喜んだ息子が、なぜかしら前と後が逆の赤いパフオーブ丁で水風呂へ飛び込むパフオーブマッスにてガーデンコンペの幕は上がったのである。

仕事を共に楽しみ、共に受賞出来た事は当社にとっては何ごとにも代えがたい喜びである。

施工従事者・出展者の立場から

しずおか緑・花・祭には、施工、出展、ガーデンアイド、庭造り相談あるいは管理作業にと会員総参加体制でのぞんできました。ここでは、施工、あるいは出展者の感想を登載しました。

緑・花・祭「しずおかガーデン」に携わって

(有)大石造園 大石春夫

平成十二年十一月七日、吉田緑・花・祭しずおかの技「しずおかガーデン」の施工が八〇石約八〇tの石組み(董山遊)から始まった。二五tレックカー

を持っているようだ。石が生きていると感じられる。自然の荒々しい「大井川の渓流」をイメージマとし、水の変わりに川底を段差のある園路、この両サイドにはそびえ立つ岸壁になって組み立ていく景石を見ると正に圧巻である。

を据え付けバックホー大、小二台で対応した。バックホーの床脇が石組みのスピードの間に合わせられ、すさまじいスピードで石組みが進んでいく、このままのスピードで進めば八〇tの石は完璧に今日中に組終る。午後三時には翌日行われる研修会のために石組みを残し他の作業を始める。今まで指導者の森・ランドアート神原氏の指示通りに作業を進めることで

高木の植栽は開場が迫りつつある三月二十一日研修会を兼ねて行われた。石組みと同様に床脇が間に合わない忙しさであった。約五〇本の高木を植栽し支柱をして数日後、緑・花・祭推進室はじめ関係各所から「樹木が倒れている」との電話を戴き現場に行つて見るの思いもよらぬ強風で八割の木が倒れていた。地元の人間とはいえこれ程の風が吹くと

で一杯であったが、ふっと一息いれて石組みを眺める時間ができた。大樹の根張りの緑に石と石が有機のつながりを

とほ呆れるばかりだった。植栽は、西と北側に黒松林、中央部と南面は雑木林で明暗をつけ、渓流内は草花の生育を考



完成した大井川溪谷

え高木は控えめにした。ベンチ、テーブル、枕木舗装、コンクリート洗い出し等を終え最終の草花の植付けを始める。神原氏と共に二〇〇鉢を一日で植栽する予定であった。この頃にはすでにガーデンコンペティションの各庭園も完成に向けて最後の追込みにかかっていた。神原氏が負けてはいられないと、袖をまくりあげ草花を

管理は専門家に任せるとそのような観点で業者も設計し施工をしてきたと思われる。ガーデンが主流で草花を植えて家が楽しく庭造りが大変多くなっている。眺める庭から参加する庭へ鑑賞する庭から肌で感じる庭へと変わってきたのは事実である。しかし古来からの技術をないがしろにした庭造りはあつてはならない。庭も時代と共に変遷していくが、我々もそれに乗り遅れない

植栽始めた。一日の予定であったが二日間かけて二倍近く

草花を植えた。またこれが景石と景石との間に据えられた大井川の玉石となぜかツチシ、南アルプスの花畑を思わせる様な深流風ロックガーデンの完成となった。今までの庭造りはリビングや客間から眺める、庭園を歩きながら鑑賞する、管理は専門家に任せるとそのような観点で業者も設計し施工をしてきたと思われる。ガーデンが主流で草花を植えて家が楽しく庭造りが大変多くなっている。眺める庭から参加する庭へ鑑賞する庭から肌で感じる庭へと変わってきたのは事実である。しかし古来からの技術をないがしろにした庭造りはあつてはならない。庭も時代と共に変遷していくが、我々もそれに乗り遅れない

ようにするために、今回の緑・花・祭は大変良い経験となったのではなからうか。

植物植付け維持管理工事に携わって

(株)ひかり造園 小松庄次郎

本イベントは、会場を取り巻く諸処の悪条件を鑑みると、奇跡的な大成功を取れたといえる。そこでこのイベントの主役である、花・緑を施工した立場からその理由と改良の可能性を述べる。

一、植物の植付けとその維持管理及びバックヤード管理がうまく機能したこと

(一)担当職員の気遣い

花壇の設計監理と調達担当及び発注者側の担当者が現場の陣頭に立ち、自ら銀を持ち、各人がより質の高いイベントに仕上げようとする気遣いがあった。(二)組織が小規模であった

植物関係メンバーの日々の打ち合わせは、県・花壇植栽監理者、造園業者の三者で、通常五〜六人と少なく、この人数だけで花・緑を担当したことが幸いした。

(三)二人連の成功

人選が良かった。ただし、発注の段階での苦勞話はあつた

ようだ。

二、施設面で改良が望まれた点
(一)園路の強度が低く、職員が狭いなど、車両対応の仕様ではなかった。特に客土などの資材搬入が軽トラク及びリヤカーで行うことが多く、作業効率が極端に悪かった。もちろん会場が公園内なので、しかたのない所かもしれないが、
(二)散水栓の数

植物は植付け直後の、発根して活着までの約十日間前後

に水やりが集中する。しかし散水栓の数が極端に少ないために、重い耐圧ホースを、五十メートル近くも引き回すこととなった。さらに、ホースの届かない場所は、軽トラクにタンクを積んで、エンジンポンプで対応しなければならなかった。特に三月下旬～四月中旬までの植付けの最盛期は、記録的な少雨傾向であったので、連日水やりの対応に追われた。散水栓の不足は以下

表舞台を支えるストックヤード



の対策を取った。現場の地下水位が高いので、掘り抜き井戸を掘り、いっぽう池・水路などが近くにある場所は、揚水ポンプにて灌水を行った。
三、バックヤード
の管理について
(一)バックヤードの面積確保
花苗の入荷の最盛期には、正規の置き場では置ききれず、所

かまわず置くこととなった。バックヤードの面積や位置などの諸条件は、植付けられる花苗の品質に直接関係するので、その位置や広さなどの決定はイベントの成否にかかわる程の重要な問題と考える。
(二)バックヤードの灌水システム
元設計では人力により手灌水であった。しかし省力化の為に正規の置き場については、全自動灌水へと変更した。しかし置場に置ききれなかった多くの花苗は、すべて手灌水をするようになった。工期延長のさかない多くの仕事をかかえたいうえ、貴重な人手と、ポト苗の水枯れに対する気配りを要求された。おわりに、二〇〇四年の園芸博は、緑・花・祭以上の出来栄えを要求された。私たちが「花・緑」にたずさわる者として身の引きしめる思いである。

初めての仕事

(株)西野造園 井手 那月

私は四月に入社したばかりの新人社員です。そんな右も左も分らない私が、初めて「現場」と呼ばれる所に入ったのはこのしずおか緑・花・祭です。入社前、高校の時に緑・花・祭に出展するための廃材を使った庭の下準備をして

きました。しかし、会社で造っている庭は、それとは比べられない程の大きいスケールの庭でした。ユニクと呼ばれる車のクレーンで大きな何トンもある庭石をいくつも動かしたり、ユンボで土をすくひ、山を築いたりと、目をみはるような作業が毎日、着々と進み、最後には、りっぱな五月らしい庭が出来上がっていました。そればかりでなく、市の花壇にもたずさわることが出来ました。花を植えるのは初めて、とても繊細な作業で、無器用な私は、何本も花を折ってしまいました。高校ではとうてい予想もできない作業や、いろいろな現場に行き、作業するというのは、とても、魅力ある仕事だなあと思いました。しかし緑・花・祭が終了、取り壊される事を知った時には少しむなしい感じもしました。

まだ、何も分からないような新参者ですが、これから徐々に仕事を覚えていきたい。そして最初の仕事が緑・花・祭だった事、このような大きな行事に少しでも参加できた事を誇りに思っています。今後がんばっていききたいです。

出展の感想

天野園芸株 望月敦彦

緑・花・祭の最初の説明会が平成二二年七月三日午前舉行で、午後現場で行了しました。現場を見学した私達はあまりの風の強さ、周辺に防風林や立木が殆ど無く敷木植栽された樹木の生育を見て不安になりました。

年が明け造成も進み主な建築物も骨格が見え始め、開催に向けて進行して居る事が実感出来たのは三月上旬でした。工程会議、出展の打合せ、現場測量等慌しく現地に三三四回出掛けました。私達三四回〇〇m²は区切りがなご適当に客土が入り四区画全体を一体と考え四〇〇m²の中に園路を設け四社がそれぞれ特徴を生かそうと云う事になり作庭にかかりました。

園路には適度の勾配をつける東京ガーデニングショーで使用されたチップの鋪装にしました。しかし、開催間近かになつて雨が二日程降つた状態で足を取り除きその上半分程度チップを敷き直して開催に備えました。

開催半ばにして大勢の人が踏み固め、雨が続いた直後は歩行に適さなくなり砂を全面に敷き均しました。数十万人の人が歩行する園路に対しては、かなり耐久性が必要と園路一つを取っても良い勉強になりました。

作庭も終りに近づいた頃は周辺の花壇回り、会場通り等急ピッチに行われ、会場を見る余裕も出来、日一日と変わって行く会場を見て開催を待つのみになりました。

仕事中心が強く3m程度の

樹木を三人で支え地下支柱を打ちやつと植込んだ事が思い出されます。

内覧会の時、二、三、三年全国の花・祭を見学した中、この様な充実した会場があったかと思いました。

宮崎の緑化フェアは素晴らしい内容に於いてはむしろ上ではないかと思いました。

出展者の庭園はそれぞれ創意工夫に味のある庭園が数多く、七十九すべての庭園や会場をビデオに収めました。

三十七日間の内約十日はポ



園路と自然植生の植え込み



ランテアや庭の管理に出掛けました。私達協会の庭園は中々の人気が何時も人の列でした。出展者の方達にもよく達いました。緑・花・祭に出展し、花を肌で感じこの様な体験は初めてでした。

淡路博の時に偶然たつた京都の庭園作家の方が「展示場には二度と出さない」と云はれた事を思い出しまし

た。

よしあしは別として初めて出展した私にはお客様の声を生で聞けたのは尊い体験と思えます。最後にありますが緑・花・祭が成功に終わったのは全体計画にあったと思えます。

私達が見た他の会場にないそれぞれのエリアの配置、植栽計画、県の担当者の御努力に加え、プロの造園集団の会場作り、運営すべてに行届いたサー

ビス、気配りなどポランテアの活躍、県下各市町村、又団体、学校等地元すべてが結果し盛り上げた賜と思えます。県造協、施工管理技士会のPRも行届き県内外にアピール出来たと思えます。

二〇〇四年の園芸博にもこれを生かし全国に発信出来る事を期待します

「しずおか緑・花・祭」を終えて

(株)東海フオレスト 酒井順子

緑・花・祭で、当社は緑・花・祭三エリアの内七色の庭及び一三市町村周辺ヤングガーデン周辺を施工しました。草花施工管理で苦労した点は施工方法と草花の知識の無さでした。植付け方法は、全体をデザイ



市町村出展の七色の庭

ンしたデザイナへの指示によるもので三、四種類の植物草花を一定の間隔で植えるのではなくアトランダムに植えるデザインでしたので、施工する業者への説明伝達が困難でした。私の今までの経験では、市松模様など規則性のある植え方が主流であり、アトランダム且つ園路側が多めに植え奥に向かうに従って本数を減らすなどという方法では植栽した経験も無

く、今回の現場で勉強になりました。今回の現場で勉強になりました。こうしたデザインの結果公園全体が、自然に近い感じの雰囲気になり、それが緑・花・祭の反響が多かつた理由の一つになっていると感じました。

また、草花植栽するにあたって、草花の知識のなさは致命的でした。施工中は、図面に草花名と本数とが記載されているため問題無かつたのですが、緑・花・祭の開催中は来場者からの草花名や管理の方法などの質問が多数あり、花壇縮み管理をしている最中に苦労しました。来場者は、草花に興味を持って来た人たちが多く、私たちがより花に関して詳しく、自分達の知識の無さや勉強不足を痛感しました。

最終的に今回公園内で使われた五〇〇種類の草花全ては覚えきれませんでした。この経験は、今後の現場にも生かす事ができ、施工した業者も含め、すばらしい経験となったはずです。これからも草花の勉強に励み、草花の施工や管理を進めていくつもりです。

みんなで作った ワラ葺き小屋

（二ノ工）造園建設（株） 後藤 文

しずおか緑・花・祭に出展する事が決定し、社員の中の五名でYプロジェクトチームを作り取り組みました。

そこでしずおか緑・花・祭のデザイン案を集めました。二十数枚提出されましたが、同じ様なデザインもあり、まずは十案に絞りました。話し合う中で、何か我々に出展する風景物を置きたいとの意見が強く出されました。最終三案は「やすらぎの原風景」「子どものかくれが（遊び場）」「吉田港の船出」でした。さきほどふれた我々の手で何かを作りたい思いが、稲ワラ屋根の家でした。構想が決定すると同時に各々でワラ葺きの屋

根があれば見に行き、昔に作った事がある人から話を聞きました。

我々はデザインの作製と同じ時に模型の作製を致しました。この模型の作製は、我々五名の気持ちの高揚と結束を深めるのに大変役に立ちました。この模型は、稲ワラ屋根の家作りや植木の位置、高さを決定するのに大変役に立ち、さらに論議をするにも説得するにもわかりやすい模型でした。模型は出来

ましたが稲ワラ屋根の家の作製に關してはなかなか手が着きませんでした。

まずは古い建具を探そうと思ひみんなに声を掛け情報を頂きました。なかなか納得のいく建具が無く苦勞しました。稲ワラ屋根の家の構想は、あくまでも車で運搬出来る大きさです。つまり、建物部分と屋根部分を分離する事です。どうしても屋根部分が大きくなってしまふことや、重量が大きくなり



清水市へ帰った「やすらぎの原風景」

ました。

屋根葺きは、一番勉強したく興味ある所に、色々な人に話を聞きアドバイスを受け手伝って頂きました。運搬は大変でしたが、現場施工は順調に進み短時間で終了出来ました。

しずおか緑・花・祭開催中は、雨をしのいで貰ったり、休憩したりと少しでもやす

らぎの空間を提供出来たと自負しております。苦勞や不安もありましたが、大変思い出深い作品になりました。

しずおか緑・花・祭が終了した今、やすらぎの原風景は、清水市のK邸にて静かにたたずんでおります。

金賞受賞の喜び

（株）浮月園 青島 彰

庭。庭と言うよりも生活の為に必要不可欠な空間。衣食住、そして交通、情報全ての面で充実した現代に於いて、私たちが「正もの」頃何処にでもあった、田舎の風景にこれほどまで心を引かれ、やすらぎを感じる事に、現代人が大切なものを失ってきたような焦りを感じました。

私どもが出展しました今回の作品は、日頃仕事で心掛けている作庭精神を純粋に思い込めた作品です。そんな作品に思ひもよらず、金賞という名誉ある賞を頂き、驚きと同時に、ただひたすらに打ち込んで来た業と技術が人に認められた事に大きな喜びを感じました。

「庭」とは、生活の一部であり、生活に溶け込み、年月を経ても飽きがこないものでなければならぬと思います。ですから単純にありふれた石、砂利、そして竹垣、あまり多くの種類の草木を使わず、メリハリをつけた純粋な和風の庭に仕立ててみました。

これからも何時の時代にも受け入れられる庭作りに励み、また今回のような機会があれば、出展して今回以上の評価を得る事が出来る様、頑張っていくと思っております。

ガーデンガイドリポート

静岡県造園施工管理技士会は、(社)静岡県造園緑化協会に事務局を置く団体で、会長は乗松文男、会員は二〇二名です。会期中、毎日二名が出て、ガーデンガイドに勤めたが、施工現場はお手のものでも、人前で話すことはあまり得意でない。それでも、マニュアルを必死で勉強し、懸命にガイドをしていると、終るときには出発時点よりお客が増えている、大きな拍手がある。そして次回への熱意が燃えた。

人と緑と花の違い

(株)キャップ 乗松文男

しずおか緑・花・祭ではガーデンアンドバイザーと言う大役を技士会でお引受けし、会員の皆さんが御苦労をおかけ致しましたが御協力のお蔭をもちまして好評裡に閉幕出来ました。事を改めて厚くお礼を申し上げます。

さて私もアドバイザーの一

少し羽目をはずしたかなと反省しきりでしたが今では特別な思い出になりました。大勢の人達の中には淡路の花博も見に行ってきたが、決して負けていない位すばらしい、特にこんなに多くの今迄には違った庭を見て良い思い出になると喜びの声を聞きうれしい気持ちになりました。ちなみに私の出番は開幕と閉幕の日でした。二日共雨降りましたが大勢の人達が御来場下された、ガイドスタッフの人達と此の大勢の人達に支えられて無事終了する事が出来感謝致しております。緑と一杯の花、そして大勢の人達との出会い、はげ足も心に残ります。最終日に「ありがとう」「さようなら」と一緒に廻ったガイドさん達と挨拶を交した時何故か彼女達の目に光った涙は忘れられません。

意義深かったガーデンガイド

源平造園建設 源平 太

年令、体型に捉われず、誰にでも似合う、春の風をデザインに取り入れたユニバーサルデザインに装を纏った若い女性が携帯マイク片手にガーデンコーズの案内をしている。傍らで鮮やかなショククリン色、街中での着用品には一抵抗を覚



乗松会長をモデルにガーデンガイドの練習

える胸からの前垂れをつけてコース案内と一緒にパンフレットを一般の人達に配っているガーデンアンドバイザー。

緑・花・祭について機会のある毎に様々な対応を求められる。都合の都合度話題に上つてのこころ、二年でした。

本年二月頃だと思えます。当造園施工管理技士会員がガーデンアンドバイザーのスタッフを担当してほしい。地域的に中部支部が主体になって、スタッフを集めてほしいとの依頼があり、中部だけで対応出来る問題でもなく、全県下の技士会員に計らなくては、当初は反対意見が強く、その時は中

部支部役員だけでなく……との不安と困惑でした。

全員に役員を通じ連絡したところ皆様快く引き受けていただき、二十七名と云う多くの会員の皆様方のご協力を得まして、期間中ツアーの総てが無事終ることが出来たことを役員として感謝しております。

常日頃携わっている業務と異なり、ガーデンアンドバイザーとして他の人達が精根込めて造られたそれぞれの「庭」の特技・技術・手法・アイデア・隠れた部分など、これらを観察し、理解し、一般人達に解り易く短時間に説明……とむずかしい、一般人達に出来ることではないとつくづく感じ、引き受けたことに対する反省、でも引き受けた以上頑張るしかない。最初のマイク片手の説明に躊躇を感じても回を重ねる度に自信もつき説明する庭も多くなり四十分のツアーがとて短く感じられました。

ツアー参加者の多くは熱心に見聞をされて居りました。今回の緑・花・祭参加につい

渾美会員の説明に耳を傾ける来場者

員としてお客様を御案内致しましたが、何しろ初めての経験で果して国内外の一流のデザイナーが創作庭園の技とセンスを競い合う、正に「世界の技」対「日本の技」とも言えるすばらしい作品をお客様に御理解戴けるように説明出来るか不安な気持ちで一杯でした。しかし、私の拙ない説明にもお客様は熱心に静かに耳を傾けて下さい内心ホッと致しました。一回目二回目と廻りますうちにお客様とも打ち解け、軽口をたたきながら歩いて参りました。ある庭園にさしかかった時お客様から突然「此の赤い実のついた木は何の木ですか」との質問とびひ出し私は暗唖にCMでお馴染の「此の木何んの木気になる木」の歌を口ずさみましたらお客様も一斉に私の歌に合わせて歌い出しているのには驚きました。実は私にも解りません」とお答えした。大爆笑、いや大失笑でした。



では当初は空々しい冷めた一面を持って居られた方は、自分を含めて多くあったと思います。それが実践に直々した時の静岡県の入連の数の数々した燃え上がるような意気を感じました。

閉会式の行なわれた五月十七日は乗会長とどの担当でした。数百人応募の中からえらばれた数人の女性ガイド、開会前、数週間強烈な特訓を受けたそうです。7月余青春のすべてを託して燃え、瞬時に消えてなくなる庭、これらにオーバードアップしたのか彼女達はもう声が出せません。

あれ程快活に話していたのに本部へのもどり道、全員泣きくずれて居りました。

熱く燃えた彼女たちや技士会員の皆様、多くの人達に底辺を支えられてこそ入場予定の一、五倍の六十万人の入場者を招くことが出来たと感謝感謝をして居ります。

「大イベント」に参加できて感謝

富士急建設 河合英俊

「私は、静岡県造園施工管理技士会から来たが、会員の河合英俊です。本日「2011年しずおか緑・花・祭に御来場下さいましてありがとうございます。」これから「庭のテリ」ワールドが

1デーコンベンションに参加されているお庭をご案内いたします。私が主に「説明するお庭は五ブーイスです。全部のお庭をご説明できませんが、途中のご質問がございましたら、いつでもご遠慮なく質問して下さい。一緒に楽しみながらご案内できればと思います。」と、口上めいた言葉が、ツアー参加者の前では上手に言えず苦労しました。

①「想定Q&Aも、自分自身で考え用意を致しましたが、必要ありませんでした。

初回ののご案内は約20人、自分の作成したメモと実行委員会からの厚さ10ミリのマニアル本をしっかりと抱えて、汗背状態の緊張していた風あり、両眼はメモの活字を追っていました。

二日目からは、肩の力も抜けて余裕がそなわったものの、参加をいただいた方々には理解して戴けたようでした。

「ガーデンアドバイザー」はどのように仕事をされるものか引き受けたものの、二月下旬、第一回説明会を受けるまでは、不安材料がありました。

配布を受けた「花緑アドバイザーマニアル」にはどのような案内を誰が何月何日何時から何回に渡って約90分間のご案内。どこに集合し、どのように、どんな程度の案内なのか。当番日のタイムスケジュール、入退出

法、駐車場、更衣室、衣袋等すべてのソフトを一冊のマニアルに数ヶ月前にまとめられていたことに感心しました。

他にも感心した事項はいくつかありました。

①フラワーアドバイザー役である県農業普及員の方々の豊富な花知識
②緑・花・祭の定義・基本理念、開催テーマコンセプト、開催目標等が存在
③すばらしいハイレベルの出演された作品
④草花を供給された方々の開花開へのこだわり
⑤2011年しずおか緑・花・祭実行委員会スタッフの方々の献身的ながんばり
⑥ボランティアの方々の早朝か



会場を支えるボランティア

らの草花管理。

⑦六〇万人もの来場者数。

最後にこのような大きなイベントにブーイス出演と共に参加できましたことと関係者の方々に、会社にて感謝を致したいと思います。

不安だった草花の知識

(株)東海フオレスト 杉山聖子

二〇一〇年しずおか緑・花・祭で、当社は約50㎡の場所に庭園の出演及び「ボランティアガイド」として参加しました。出演庭園のイメージとして、日本の美しい棚田の風景をモチーフにし、モダンな雰囲気を出せるように庭を創ってみました。眼下に広がる棚田をアレンジするために、キヤンパスは掘り下げる

事にしました。この庭の前に立つと棚田から伝わって流れる水音が涼しげに耳に届くよう施工しました。草花は生物として、慈愛に満ちた使い方を心に優しさを、生命感を表現するための花の色づかいに大変苦労しました。

また、「ボランティアガイド」として参加

イアガイドを行うにあたっての説明会では、草花の事に關しての知識に自信が無い私にとって、本当にガイドが勤まるのか心配でした。

「この花の名前は何か」と、ツアーに参加した来場者の方々に質問されたら答えられないのか、来場者の期待を裏切れないようガイドツアーができるのか、不安とプレッシャーを感じました。初日のツアーは緊張しましたが、しかし参加された方々が興味深く熱心に説明を聴いていたので、来場者の方々の笑顔に助けられ和やかなムードでツアーを進める事ができました。ただ、ハンドメガホンに慣れていなかったため、自分の声が来場者にうまく伝わる事ができなかった事が、初日の反省点でした。

最終日は、雨という生憎の天気でしたが、しかし来場者の方々は雨の中でもツアーに参加され熱心に耳を傾けていただきました。

私も回数を重ねることに参加者がコミュニケーションを取れる事ができ、質問にも答えられ無事に任務を終える事ができました。また、ガーデンアドバイザーを通して貴重な経験をすることもできました。これからも、草花の勉強を続けていきたいと思っております。

協会ブースで 一万人余がアンケートに解答 淡路花博よりすばらしい評判

協会では、緑化に関する県初めての大型イベントを成功に導くため、苦況の続く造園業界であるが、我々のイベントだという熱意を示し本部では基金五〇〇万円を取崩し、支部では臨時負担金四五〇万円を拠出し、あわせて九五〇万円の庭園を展示した。庭園に設けた東屋では庭造り相談に応ずるとともに、樹木名やクイズ、アンケート等を行い、会期中アンケートに答えていただいた方は一万三二六人に達した。

ここに展示した東屋やベンチは富士山ごども園へ、樹木は小笠町の都市公園に寄贈し、有効に利用されることになっています。

庭園でのあれこれ

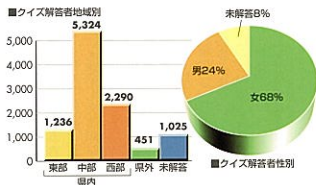
庭園の東屋には、毎日、当番で一四五会員すべてが庭造り相談やアンケート用紙の回収とクイズの採点にかかり、多い日は八〇〇人分のクイズの採点を追われた。

庭園材料は主に詩歌諸語に詠まれたものを使用し、開期中に花が咲いているようにと工夫したと思うようにはいらない。造園材料解説のパネル約四万枚を配布してそれを見ながら庭を散策してもらった。「北原白秋の詩「落葉松」が全部のついで。うれしい！」



クイズに挑戦する来場者

と喜ぶ中年の婦人、子供たちに「河井醉茗の詩「砂ずり葉」を読んでよかせたい。もつとバ



が断然多く、全体の五〇%を占めていた。

淡路花博よりすばらしい！

開期中に散髪屋に出かけると「吉田の緑・花・祭、淡路花博よりすばらしい」という評判だよ」と隣りの客、職業を伺うとタクシードライバー。藤枝駅から会場までお客の送り迎えをしているという。

以下、協会出展庭園「歩いて触れる詩歌の心」の東屋でアンケートに答えていただいた方々の声。

会期前半は「協会出展の庭園に対する感想」、後半は「緑・花・祭全般に対する感想」となっています。協会出展庭園に対する感想では、プロ顔負けのアドバイスもありました。会員の一層の研鑽を促しており、謙虚に耳を。



人の抱えない東屋

協会出展庭園の感想

- 洋花の色が樹木に似合わないので植栽の時は色づかいが大切。洋花の中にも、もつとこの庭に似合う花があると思う。
浜松市 六〇才代 女
- 水辺にセリ等の水草をもう少し欲しいと思います。自然（野草）の小さめの浮き草を散らしても良いかも。
清水市 六〇才代 男
- 東屋の横は窓枠でなく、クリスマスローズなども良いと思います。
清水市 五〇才代 女
- 札がもつと判りやすく付いているとよい。企画としては大変興味があり良かった。他の部門でもやると良い。
掛川市 四〇才代 女
- すばらしい庭園です。手入れ大変かと思いますが、一ヶ月で閉園するのかもしれない気がしました。充分に楽しませていただいています。
藤枝市 五〇才代 女
- 二〇番の木「キバナペー」を初めて知りました。きれいです。
富士市 五〇才代 女
- 知らない名前木がたくさんありました。童心にかえって楽しかったです。
大井町 五〇才代 女

●あそびながら木の勉強ができてよかったです。
三島市 十才代 男

●滝、小川、築山があり、純日本風の庭がすばらしい。
沼津市 六〇才代 男

●クイズ形式でしたので、木々をじっくり見られて良いアイデアだと思います。
四日市市 二〇才代 女

●散歩出来そうなので近くにあればいいなと思いました。とてもお花がきれいでした。
清水市 四〇才代 女

●確かに懐かしい眼に出てくる花を集めてあり、実物を見るの



七色の庭は花盛り

が初めてのものもありました。このクイズで探すのも楽しい企画でとても良いと思いました。
沼津市 四〇才代 女

●ガーデニングがやりですが木を植えた風情も素敵だとこの庭を見て思いました。ぜひ庭に木を植えたい。
大井川町 四〇才代 男

緑・花・築全体の感想

●淡路の花博よりも何倍も見る所があり、素敵でした。参考になる所もいくつもありました。素敵なら友人にもPRしたいと思えます。
浜北市 六〇才代 男

●静岡でこのようなイベントを催したという事は非常によい。色々な花を見て心が洗われほっとした一日を過ごした。
清水市 六〇才代 女

●シャトルバスを待つ間に入場券が買えるとうまい。(多数)
三島市 五〇才代 女

●自然のエリアと日本庭園が良かった。これだけの多種の花を一度に咲



協会出展の東屋はオアシス

な音楽などが流れていなくて静かで、落着ける雰囲気がいと思った。
浜松市 二〇才代 女

●雲の上のガーデンがいい。第一駐車場から歩いてという事を明確にして欲しかった。四十五分バスを待つより歩いた方が早かった。
横浜市 三〇才代 女

●平日にもかかわらずたくさんの人で驚きました。花が美しく咲いていてとても楽しく見られました。ガイドツアーがわかりやすかったです。
島田市 四〇才代 女

●昨年見た淡路花博よりとても良かった。なじみ有る花ばかり。二度目です。期間が短いので残念です。
島田市 七〇才代 女

●バスポートを購入して十二回ほど来ましたが、いつ来てもいつもきれいに手入れされていてスタッフの皆様が頭の下がります。毎回満足して帰れることに感謝。
大東町 五〇才代 女

●知らない花が多いのでタブツでも良いので名前を付けた札を付けて欲しい。(多数)



花の滝

島田市 五〇才代 女
●色々な雰囲気の花が見られてうれしかった。自分の家建ててこんな庭を造りたい。
静岡市 二〇才代 女

●七色のゾーンが面白かった。花の名前が書いてあるとよくわかるのでとてもよかったです。全体的にはよかったです。
浜松市 四〇才代 女

●市町村別の展示、新聞等で空中写真を見るとよく判りますが現地ではさっぱり……。
浜松市 五〇才代 女

ワールドガーデン・コンペティション入賞作品

緑・花・祭の中でも注目されたのがワールドガーデン・コンペティション。七十九点の出展があり、その内会員の出展は三十六点とほぼ半数になりました。ここでは会員外であるが、最優秀デザイン賞に輝いた広島県の村田卓雄氏の作品「農の庭(生産する庭)・食の庭」と会員の入賞作品を紹介します。



審査員特別賞(金賞)
ぼくらのヒツジ基地
(株)ひかり造園



最優秀デザイン賞
農の庭(生産する庭)・食の庭
(有)ムラタ造園



審査員特別賞(金賞)
ニジニシド(大原特選)(金賞)
巨樹切株のある庭
―再生への序章―
源平造園建設(株)



審査員特別賞(金賞)
庭の空気を感じさせる風景
(株)浮月園



MADE IN JAPAN
(株)愛樹園



(財)日本花の会賞
歩いて触れる詩歌の心
(社)静岡県造園緑化協会
本部、東・中・西部支部



(社)日本花せ生産協会賞
緑が作り出すモダンアート空間
(株)花ぶく



(社)日本造園組合連合会賞
我が家の森
(社)静岡県造園緑化協会
藤枝地区



英国王立園芸協会日本支部賞
棚田のお花畑
―日本の風景―
(株)東海フォレスト



(財)日本造園修景協会賞
やすらぎの原風景
ニラユー造園建設(株)



静岡朝日テレビ賞
田舎風ガーデンいま・むかし
(株) 桔梗庭苑



静岡新聞社・SBS静岡放送賞
ワイン恋ものがたり
大昭和住宅(株)



(形) 日本花普及センター賞
Symphony 21
田原造園建設(株)



(社) 日本家庭園芸普及協会賞
野生の味わい
林の中に住まう
(有) 松浦造園



テレビ静岡賞
富士山と共に
富士急建設(株) 静岡支店



Neo Modern Garden
王子緑化(株) 富士支店



(社) 日本園建設業協会静岡支部賞
ジャパニーズなガーデン
天龍造園建設(株)



(社) 日本植木協会賞
ひとりくろく庭
みどり園(株)



(社) 静岡県造園緑化協会賞
ふれあいの庭
天野園芸(株)



(社) ライトライオンデザイン協会賞
月明りの中で
(株) 八雲



静岡第一テレビ賞
遊石の庭
(株) 植正園



環境緑化新聞社賞
五感で味わう竹の庭
宮村造園建設(株)

